



賞金女王決定戦の出場予定選手

11月26日順位発表!
(チャレンジカップ終了時までの獲得賞金順位で決定)

賞金女王シリーズ戦(一般)
賞金13位から順に42名 12/11~16

賞金女王決定戦GI
獲得賞金1~12位(12名) 12/13~16

賞金女王決定戦・シリーズ戦 開催予定

	賞金女王シリーズ戦	賞金女王決定戦
12/11 (火)	1R 予選 11R 12R ドリーム戦	
12/12 (水)	1R 予選 12R	
12/13 (木)	1R 予選 10R	11R トライアル 12R
12/14 (金)	1R 予選 10R	11R トライアル 12R
12/15 (土)	1R 一般戦 7R 8R 準優勝戦 10R	11R トライアル 12R
12/16 (日)	1R 一般戦 6R 7R 選抜戦 9R 11R 優勝戦	10R 順位決定戦 12R 賞金女王決定戦

賞金女王トライアル得点

着点	1着	2着	3着	4着	5着	6着
得点	10	9	7	6	5	4

この「賞金女王決定戦」においては、「賞金女王決定戦」同様に、トライアルの着順による得点が特別に設定されている。上位着順と下位着順の得点差が小さく第1戦、第2戦で上位着順を取った選手は精神的にも大きく優位に立てるので有利になる。最近5年の賞金女王決定戦の例をみると、第1戦で1着を取った10人のうち9人までが優出している。ボーダーラインは、ここ3年続いて21点となっており、22点ならば優出圏内だ。ただしスタート事故はもちろん、失格艇が出ることもボーダーラインが大きく変わってくることもある。失格になると、たとえ責任外でも得点が加算できないため、優出はほぼ不可能になる。

なおシリーズ戦の方は、一般戦扱いのため、大村独自の得点方式で、ドリーム戦、特選以外は通常の得点(1着から順に10・8・6・4・2・1点)で計算される。また大村お馴染みの1R目覚まし戦も実施される。

賞金上位12戦士の決戦

この「賞金女王決定戦」(GI)並びに「賞金女王シリーズ戦」は、今年が第1回なので、出場選手の選抜方法と、その節の勝ち抜きシステムを簡単に紹介していこう。既に26回を数える「賞金女王決定戦」並びに同シリーズ戦と、ほぼ同じシステムだと認識してもらっていいだろう。

まず女子選手の中から、その年の1月1日からチャレンジカップ終了日(今年であれば11月25日)までの獲得賞金上位12名が「賞金女王決定戦」に乗る資格を得る。なお賞金12位以内であれば、女子レースへのあつせん除外選手、スタート事故による出場辞退期間と重な

る選手でも出場できる。本稿締切時点ではまだ出場選手は確定していないが、出場のボーダー賞金額は2200万円前後に落ち着きそうだ。

さらにその12人に続く、賞金額13位から賞金順に42名が「賞金女王シリーズ戦」に参戦する。こちらには、女子レースへのあつせん除外選手と賞金16位以下のスタート事故出場辞退期間の選手は参戦できない(賞金13~15位の選手は出場可能)。

シリーズ戦は11日に開幕

この節の開催スタイルについては左図を参照していただきたい。まず「賞金女王シリーズ戦」が先行してスタート(12月11日)。通常の6日間の一般開催同様

に、4日目までが予選、5日目に準優勝戦、6日目(16日11R)に優勝戦を行う。

一方「賞金女王決定戦」の12人は、シリーズ戦2日目の12日にエンジン抽選・前検を行い、翌13日が初日。3日間、1日1走のトライアルレースを行い、3走の得点率上位6選手が「賞金女王決定戦」(16日12R)へと駒を進める。3レースしか走らないため、1走ごとの得点を持つ意味は重い。

トライアル第1走は、賞金額上位から順に艇番(1~6号艇)を与えられる。

特殊なトライアルの得点

したがって、賞金額1位と2位の選手が1号艇となる。続くトライアル第2、第3走の艇番は、抽選により決定。そして決定戦の艇番は、得点率の順で決まる。

出場メンバーの選出と開催方法

第1回賞金女王決定戦(GI)



昭和34年当時に水面を駆け抜けた女子レーサーたち

現在の女子戦隆盛の先駆けとなった鈴木弓子



第1回的女子王座決定戦は1987年12月に行なわれ、優勝したのは鈴木弓子だった

その第1回は、大村での開催が決定。今年創設60周年を迎えたボートレースは、また新たな時代に入ったと捉えることもできるが、その年に生まれる女子レース新時代の象徴がまたこの発祥の地でスタートすることは何やら因縁めいてはいまいか。新しく紡いでいくことになる女王の系譜が始まり、初代のマネークイーンがもうすぐ生まれる!

そして今年、平成24年から、レース体系見直しの中で「賞金女王決定戦」(GI)が新設されることとなった。今やボート界全ての選手が最終目標としているのが年末の「賞金女王決定戦」であるが、女子レースの頂点もまた、12月に行われるこの「賞金女王決定戦」と位置づけられていくことになるだろう。

女子戦新時代もボートレース大村から始まる!!

昭和27年、大村でボートレースが始まった当初から、女子レーサーも生まれた。30年代後半からは選手数が大きく減ったこともあるが、それでも絶えることはなかった。昭和の終わりに再び女子の選手志望者が増加し、62年に第1回女子王座決定戦を開催。その後もほぼ毎期デビューし、10年ほど前からにわかにも人気が沸騰しはじめ、現在は総勢で180名を超える。

女子王座創設当初から活躍してきた日高逸子



4000番台で初めて女子王座を獲得した田口節子

